

磐梯貨物、安全大会

売上高拡大へ高品質追求

磐梯貨物(金田昇社長、福島県会津若松市)は1日に開いた安全大会で、グループの昇栄(同、白河市)と団結して課題に挑みながら、安全で品質の高い物流へ取り組み続ける方針を確認した。磐梯貨物本社、郡山、白河の両営業所の社員が集まり、グループ・会社の経営方針について理解を深め、事故防止や資産運用をテーマとした講習に参加した。昇栄の山崎慎二専務が、2026年度の昇栄グループの経営方針を発表。待遇

の改善と新たな挑戦への原資獲得に向けて売上高の拡大を目指し、26年度は「Unite for the Best」をスローガンに経営に取り組み、29年3月までに目指すグループの売上高55億円(昇栄50億円、磐梯貨物15億円)に対し、26年3月期時点で54億円の売上高を見込む。昇栄と磐梯貨物はこれまで連携した経営の改善を図り、昇栄のノウハウを磐梯貨物に横展開した総務データの一元化プロジェクトを実施している。

大畑卓也副社長が26年度の磐梯貨物単体の経営方針を説明した。車両・タイヤの購入契約や事故の発生状況、高速道路の利用状況を報告。労働時間短縮や輸送の効率化を目指した取り組み、価格転嫁の状況を話し

た上で、福利厚生面の含めた「従業員ファースト」の経営に力を注いでいくと表明した。また、各営業所の所長が営業目標を共有した。教育プログラムとして、東京海上日動火災保険会津損害サービスセンターの早川宗佑所長が「事故防止に向けた取り組み」をテーマに、ディスカッション形式で事故の発生状況を分析しながら解説。東邦銀行アセツトコンサルティング部の高梨市太郎副プラザ長が、磐梯貨物で導入を始めた職場つみたてNISAについて金融の知識を交えながら説明した。

(柳井日菜子)



経営方針を説明する大畑副社長

大畑卓也副社長が26年度の磐梯貨物単体の経営方針を説明した。車両・タイヤの購入契約や事故の発生状況、高速道路の利用状況を報告。労働時間短縮や輸送の効率化を目指した取り組み、価格転嫁の状況を話し